

【授業の到達目標および概要】

看護学教員・専門看護師または認定看護師等の役割を担う看護職者が教育的機能を果たすために必要な要件を理解し、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開できる能力を習得することを目標とする。

上記の目標達成に向けて、看護師養成教育の歴史的変遷と現状を学習し、看護学の発展に向けた看護師養成教育の課題を明確にするための文献検討・討議・レポート作成を行なう。

【授業計画】

- ①② 看護教育学の基礎知識
- ③④ 看護師養成教育の現状と課題
- ⑤⑥ 看護学の教育カリキュラム
- ⑦⑧ 看護学の教育方法
- ⑨⑩ 看護学の教育評価
- ⑪⑫ 看護教育学研究論
- ⑬～⑮ まとめ

【授業外学習】

院生は毎回、課題図書および関連文献の精読を通して内容を正確に理解する。また、疑問点や理解を深めたい点を明確にして授業に参加する。

【成績評価の方法・基準】

レポート、プレゼンテーションとその資料、討議への参加状況により総合的に評価する。

【教科書】

- ・杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学，第5版，医学書院，2012.

【参考書】

- ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開，医学書院，2013.
- ・看護教育における授業設計，第4版，医学書院，2009.
- ・グレッグ美鈴・池西悦子編集：看護教育学，南江堂，2009.
- ・B. S. ブルーム他（梶田叡一他訳）：教育評価法ハンドブック，第一法規，1973.
- ・R. オリバー他（小山真理子監訳）：プリセプター・臨床指導者のための臨床看護教育の方法と評価，南江堂，2000.
- ・阿部幸恵編著：看護のためのシミュレーション教育，医学書院，2013.
- ・古橋洋子編集：看護教員ハンドブック，医学書院，2013.
- ・日本医学教育学会医学医療教育用語辞典編集委員会編：医学医療教育用語辞典，照林社，2003.

【教材】

適宜資料を配布する。

【備考】

必要に応じて、看護職者に限らず学校保健および養護の関係職種にも共通する教育課題を扱う。